

## 6月20日は「世界難民の日」 JICA 中国で食を通じた難民理解のフェア 開催します

- ✓ フェア期間中、難民の母国の料理を日替わりで提供します。
- ✓ 紛争が長引くウクライナ、武力衝突が起こったスーダンなどの料理を提供する日もあります。
- ✓ レストラン前では難民に関するミニ展示を行います。料理と合わせて、難民問題を身近にとらえ、考えるきっかけとなります。
- ✓ レストラン内に募金箱を設置、趣旨にご賛同下さる利用者のお気持ちを、日本国内の難民サポートを行う NPO へ寄付します。

毎年6月20日は「世界難民の日」(World Refugee Day)。難民の保護と援助に対する世界的な関心を高めるため、2000年に制定されました。難民問題は世界の喫緊の課題となっており、残念ながら年々その数は増えています。そして日本にも、これまで1万人以上の難民が逃れてきており、ウクライナ以外の国からの方も多くいらっしゃいますが、その事実はあまり知られていません。

JICA 中国では、誰もが興味を持つ「食」を通じ、難民問題を知る機会として「難民の故郷の味フェア」を開催します。「世界難民の日」を挟んだ2週間をフェア期間とし、ひろしま国際プラザ内レストラン「ラコルト」のエスニックバイキングメニューのうち毎日1品を、難民を多く輩出している国（過去に輩出していた国を含む）の料理を日替わりで提供します。

**身近なことから難民問題を考えるきっかけとなる本フェアを、ぜひご取材ください。**

- フェア開催期間： 2023年6月13日（火曜日）～6月26日（月曜日）
- 会場： ひろしま国際プラザ レストラン「ラコルト」（東広島市鏡山 3-3-1）
- 営業時間： 11:30～14:00（ラストオーダー 13:30）



【難民の母国の味から難民問題を考える“Meal for Refugee (M4R)”について】  
母国を追われ、日本にたどり着いた難民のサポートを行う「認定NPO法人 難民支援協会（JAR）」が出版した、日本で暮らす難民と共に作ったレシピ本「海を渡った故郷の味 Flavours Without Borders」から始まった取り組み。両親がビルマ出身で日本生まれの難民2世である学生の発案に日本の学生が加わり、難民に対する誤解を解き、楽しみながら理解してもらう活動として各地の大学の学生食堂でスタートし、現在では、企業の食堂でも展開されています。本フェアでも“M4R”にのっとったメニューを中心に提供しています。（過去に難民を輩出していた国のメニューも含まれます）

### 【本件に関する問い合わせ・申込み先】

JICA 中国 市民参加協力課 担当:新川  
TEL:082-421-6305 FAX:082-420-8082 E-mail:jicacice@jica.go.jp

地域から世界へ、世界から地域へ  
元気をつなぐ JICA 中国

JICA 中国ウェブサイト

